

2020年〈令和2年〉1月1日(水曜日)

市の経済ミッションがエコファクトリーの熊本本社を訪ねてきた。席上、ミッションの代表は「釜山広域市は韓国第2位の経済都市で世界6位の貨物量を誇る港湾都市。近年の日韓関係は戦後最悪といわれるが、我々としては海外の革新的な技術を取り入れ、韓国内に新たな流れを作つていきた

い。当釜山広域市への進出をぜひ考えて頂きたい」と述べ、事業敷地の50年間無償提供、税制の優遇策など誘致に関連する様々な優遇策を説明した。エコファクトリーは、中国・遼寧省營口市に現地企業と合弁設立した工場を持つ。韓国に対し合弁工場で製造した輻射式冷暖房装置「エコウイン」を、韓国側総代理店を経由して販売している。今回の進出打診は、韓国での地産地消の道が開けることを意味する。村上社長は「前向きに検討します」と意向を伝えた。同社が描く「エコウイン」の世戦略に新たな1ページが加わるかもしない。



全国的に拡大した公立小中学校普通教室・特別教室への空調設備整備事業で「エコウイン」は、一

釜山人点描



エコファクトリー

村上 尊宣
社長

輻射空調「エコウイン」世界にはばたく

昨年12月19日、韓国・釜山広域市の経済ミッションがエコファクトリーの熊本本社を訪ねてきた。席上、ミッションの代表は「釜山広域市は韓国第2位の経済都市で世界6位の貨物量を誇る港湾都市。近年の日韓関係は戦後最悪といわれるが、我々としては海外の革新的な技術を取り入れ、韓国内に新たな流れを作つていきた

い。定の存在感を示したが、エコファクトリーにとつては、むしろ学校空調に統じて全国自治体で計画され、いる体育館へのエアコン導入が大きな商機となる。すでに東京都内で採用実績が出始めており、自治体が計画する向こう3年の期間でさらに大きく伸びることが予

想されている。「エコウイン」は、通常の対流式空調と異なり、無風なので体育館とは相性が良い。そもそも「エコウイン」が世間の注目を集めきつかけになつたのが

「エコウイン」が世の中に登場したのは2007年2月。その年熱で床・壁・天井を直接冷やしたり暖めたりするので年間を通じて温度ムラのない温熱環境を実現。それを、韓国側総代理店を経由して販売している。今回の進出打診は、韓国での地産地消の道が開けることを意味する。村上社長は「前向きに検討します」と意向を伝えた。同社が描く「エコウイン」の世戦略に新たな1ページが加わるかもしない。

くり日本大賞（2009年7月）、九州ニュービジネス大賞優秀賞（2010年6月）、第4回九州環境ビジネス大賞（2011年10月）など各賞受賞に輝いた。

平成26年度省エネ大賞審査委員会特別賞の受賞対象となった宇土市民体育館（熊本県）の導入事例

は、対流式空調が一般的だった公共施設の大空間空調に一石を投じ、「エコウイン」の原理は、発熱されてるもののだた。1980年に完成された同体育館の耐震改修による大幅なりユーティアルを行う際、先進

の省エネ対策として「エコウイン」を採用したのだ。

同体育館は1990年ごろまで対象物との間で直接エネルギーを授受するというものがテマに浮上し、当時、アイデアを温めていた熱移動の新しい仕組みを進めていった結果、エコウ

インの開発につながつていった」と回想する。「エコウイン」を開発・実用化したのは2006年12月28日。本社ギャラリーに大きな歓声が湧き起つた。

「エコウイン」はエコウインパネル、エコウインタワー、エコウインオーナメント、エコウインハーブリッドなどシリーズ機種を広げてきた。昨年10月には外気処理システム「エコウインAIR」の市場投入に踏み切った。「2016年以降、受注は毎年前年比30%増を確保。前期（2019年12月期）も好調な推移だつた。国内の実績に立つて、2020年は海外市場に布石を打ち、広げていきた

た。同体育館への導入を皮切りに、その後「エコウイン」は導入事例を着実に伸ばしていく。



整備事業で「エコウイン」は、一

感染や乾燥、急激な温度変化によるヒートショックなどのリスクを軽減できる。

た。同体育館への導入を皮切りに、その後「エコウイン」は導入事例を着実に伸ばしていく。



たのは、2004年、村上社長が倫理法人会主催の経営者セミナーに参加し、地球温暖化の現状に強い危機感を覚えたことだつた。

建築設計事務所を経営していた村上社長は「環境に優しいエコ住宅の開発に取り組んだが、その中で空調分野のエネルギー消費量削減がテーマに浮上し、当時、アイデアを温めていた熱移動の新しい仕組みを進めていった結果、エコウ

インの開発につながつていった」と回想する。「エコウイン」を開発・実用化したのは2006年12月28日。本社ギャラリーに大きな歓声が湧き起つた。

「エコウイン」はエコウインパネル、エコウインタワー、エコウインオーナメント、エコウインハーブリッドなどシリーズ機種を広げてきた。昨年10月には外気処理システム「エコウインAIR」の市場投入に踏み切った。「2016年以降、受注は毎年前年比30%増を確保。前期（2019年12月期）も好調な推移だつた。国内の実績に立つて、2020年は海外市場に布石を打ち、広げていきた

た。同年は熊本発の革新的な空調技術が世界に翔く第一歩の年に

なりそうだ。

た。同体育館への導入を皮切りに、その後「エコウイン」は導入事例を着実に伸ばしていく。

